

学校の教育目標「認めあい 支えあい 高め合う」



あゆみ

令和7年度3月号
令和8年3月2日発行

八潮市立八潮中学校
八潮市中央1-1-2
Tel:048-996-4219
生徒数 561人

「苦勞は買ってでもせよ」

校長 市川 真志

いよいよ、令和7年度も最後の月になりました。日に日に暖かくなり、春を思わせる気候がだんだん多くなってきました。何となく楽しい気分になる今日この頃です。弥生3月、皆さんにとって価値あるまとめの月になるよう、全力で応援していきたいと思います。



さて、令和7年度は皆さんにとってどんな1年間だったでしょうか。八潮中学校でも、いろいろなことがありましたが、皆さんの努力と協力により、何とか1年間過ごすことができました。生徒の皆さんはもちろん、保護者の皆様、地域の方々、先生方に心から感謝しています。この1年を振り返って思うことは、「苦勞は決して無駄ではない」ということです。人生は、うまくいくことばかりではありません。時には「もうダメだ」と思うような、解決困難な問題が起きてしまうことがあります。そんな時、「これは何か意味があることだ」と捉えて、困難な問題に立ち向かっていくと、問題が解決したときに大きな充実感が得られ、自分自身が大きく成長します。問題解決に取り組んでいるときは、大変な苦勞の連続ですし、「どうして自分だけ苦勞するのか？」と考えてしまいがちです。しかし、私は苦勞が人を磨くと信じています。実際、私が出会ってきた人の中で、尊敬できる素晴らしい人たちは、みんな苦勞を乗り越えてきました。苦勞することは決して損なことではないのです。松下電器（現在のPanasonic）の創始者である松下幸之助さんは、「苦勞は買ってでもせにゃあいかなですよ。」と言われたそうです。つまり、苦勞することは人生に必要なことだから、例えお金を払ってでも苦勞した方が良い、という意味だと私は捉えています。

これから皆さんが歩いていく人生は、良いこともあれば良くないこともあると思います。ある意味、苦勞の連続かもしれません。でも、皆さんは、決して苦勞から逃げないでほしいです。大変そうなことでも、あえて挑戦して苦勞を買って出るような人であってほしいです。苦勞は、全部自分自身の力になります。苦勞を乗り越えることを、苦勞で成長していくことを、楽しんでいけるような、たくましい人になってほしいと願っています。頑張り、八中生！！

